

世界の問題を通じて「いのちの大切さ」を考える

～中央講習会ワークショップ実践紹介

今年度の中央講習会はEHL[※]をプログラムの中心として、国際人道法を日本の青少年に伝える意味やその方法について学びました。講習会の締めくくりとして、EHLや他の赤十字教材を活用した指導案作成に取り組んだワークショップの中から、世界の問題をきっかけとして「いのち」を考える、二つの実践例の指導案を紹介します。

※EHL:「人道法の探究」(Exploring Humanitarian Law)。赤十字国際委員会(ICRC)が作成した、青少年向けの国際人道法の教育プログラム。



授業展開後
子どもたちに小さな変容が見られるようになった。
「先生、僕らと同じ年ぐらいの人が今日もどっかで戦ってはるんやんな」や「僕らでできることないかな」などの声が聞かれるようになった。
少なからず、人間の尊厳についての心情に子どもたち自身が意識するきっかけになったように感じる。
「子どもたちの感想より」
●世界ではこんな思いをした少年兵といわれる人が三〇万人もいると知って、こんな事実が起こっていることが許せないと思いました。
●アブラハム君の気持ちを利用して兵士にしたことはとてもひどいことだと思った。
●少年兵になったことで以前の生活に戻れなくなってしまうけれど、生きていくれてよかったと思います。
●アブラハム君が一度は少年兵になったけれど、兵士をやめてにげてきたことは勇気ある人だと思った。

「人間の尊厳を考える」

京都市立西野小学校 教諭 佐倉 國寛

対象：小学校5年生 <道徳>
教材：『人道法の探究』探究2C
【「少年兵」に着目して】より「戻りたくない」

1 主題・ねらい

少年兵の存在を知り、一人の少年の立場を考え、心の葛藤にせまることを通して、人間の尊厳について考え、他人や自分の生命が手段・方法・道具としてとらえられるのか、目的としてとらえられるのかを一つの判断材料として、かけがえのない生命の大切さを考えることができる心情を育てる。

2 指導計画

学習活動と主な発問

- 1. 学習の導入**
この写真を見て何か気がついたことはありますか。
■今日は少年兵という存在から学びます。アブラハムの状況と自分を比べて考えてみてください。
- 2. アブラハムの状況を知って考える**
みなさんがアブラハムくんの立場ならどう考えますか。
■アブラハムのその後について知る。
- 3. 少年兵から抜け出てきたアブラハムが言った言葉から考える**
アブラハムくんが言った「もどりがたい」といった言葉をみなさんならどう考えますか。
■アブラハムが社会にもどってからのその後について知る。
- 4. 学習の感想を書く**
このような事実があるということについてみなさんはいったいどのように考えますか。

予想される子どもの思い

- ・外国人
- ・子ども
- ・携帯電話みたいなものを持っている。
- ・悲しそうな顔をしている。
- ・くやしいかもしれないけど入らない。
- ・大切な家族がひどい目にあったなら許さなくて入るかもしれない。
- ・入って戦ったんだね。
- ・どうしても相手のことが許せなかったのかな。
- ・ひどいことをされたのかな。
- ・悲しい思いをしたと思う。
- ・だまされてしまったのかも。
- ・さみしい思いをすることになってしまったんだね。
- ・世界には悲しい思いをしている人がいる。
- ・もっとよい世の中になってほしいな。
- ・こんな事実は許されてはならない。

◎支援や●留意点

- ◎一度に全ての画像を見せるのではなく、最初は一部分を隠した状態で画像を見せることで段階を追って発表する視点を絞っていき、本来の学習に向かう雰囲気を作る。
【関心・意欲・態度】
少年兵の存在を自分と比べて考えようとしている。
- 少年であっても一兵士としての残虐な行為を行っていた事実はあるが、学習を進める上で適切ではないため、あえて触れずに価値に迫れるようにする。
【道徳的な心情および判断力】
アブラハムくんの心の葛藤を考える中で人間の尊厳に気づくことができる。
- ◎言葉を掲示してわかりやすくまとめることにより、さらに実践意欲を高めることができるようにする。
- 【道徳的な実践意欲・態度】
かけがえのないものである自分や他人の生命を大切にしていこうと考えることができる。

3 実践を終えて

「人道法の探究」の資料を用いて学習を展開することにしたものの、小学校5年生の道徳の学習。そして子どもにとつて決して身近とはいえない内容と考えたとき、資料をそのまま用いるのではなく小学校5年生にも理解しやすい内容にしながら、さまざまな価値を含んでいる資料から価値を精選し、なおかつ、どれだけ子どもと資料との距離を近づけるかに留意しながら資料を作成し直し授業に臨んだ。

授業において、アブラハムの立場に寄り添いながら揺れ動くであろう二つの思考をもとに全体で話し合い活動を行ったことで、価値についてより考えが深まったように思われる。相手の意見を聞きつつ、自分の思いを話すことで相互につながりが出てくることとなり、その結果考えが深まったと思う。

また学習の後半に少年兵といわれる子どもが世界には三〇万人いるという事実を突きつける中で驚きとともに憤りを抱く児童も見受けられた。

「クイズ ハイ&ロー ～数字で読み解く世界～」

山口市立平川中学校 教諭 青山 拓

対象：中学校1～3年生 <道徳>
教材：『世界で生きる子どもたち』他

1 主題・ねらい

世界の現状を示す数字を提示し、それについて考え、学ぶことにより、国際人道法を学ぶ導入とする。世界にあるさまざまな事実を正しく知ること、今の自分の生活を振り返ることができる。また、「自分にできることは何なのか?」を考えて、その人なりの行動につなげるこの大切さを伝える。

2 授業の流れ

パワーポイントで教材(クイズ)を作成し、電子黒板に映しながら授業を行う。プロジェクトで投影してもよいが、電子黒板の方が書き込むことができるので授業が容易になる。生徒にはプリントを配付し、メモをとりながら授業ができるように配慮する。

3 実践を終えて

まずは、授業後の生徒の感想を紹介する。
■今日の授業は残酷だったけど、現実を知れてよかったです。「世界の人の何%」などの数字が大きくて、頭から離れませんでした。世界で生きる一人の人間として、この事実が知れたことがよかったと思いました。
■すごく暗い話で、テンションが下がったのは事実です。シヨックのあまり何も考えられなくなり、聞くだけで精一杯だった。最終問題のところには、誰でも考えられるようなことしか思い浮かばなかったもので、これからの日々は周りを見て行動して、答えをたくさん探したいです。
■今日の授業で聞いたことで、私が知っていることは一つもなく、聞いても想像することができませんでした。もっと知って考えなければならぬと思ったし、絶対に変えていか

質問(クイズ)は全十一問

- ①世界人口
- ②人口増加による問題点
- ③餓死者数
- ④安全な水を利用できない人数
- ⑤衛生施設が使用できない人数
- ⑥保健サービスをうけられない人数
- ⑦学校に行っていない人数
- ⑧少年兵の人数
- ⑨少年兵を使う理由
- ⑩世界の軍事予算額
- ⑪WFPによる食料援助の一食の費用

最終問題には「この現状を知り、あなたはどうするべきだと思いませんか?」という問いかけを用意しており、その答えは、プリントに記入させる。

なければいけないと思いました。でも、どうすれば世界を変えられるのかわかりません。

感想からもわかるとおり、生徒の反応は予想以上に大きかった。少年兵の話聞き、授業中に涙ぐむ生徒もいた。また、さまざまなメディアから世界の現状が流れているにもかかわらず、生徒の多くは「初めて知った」と感想に書いており、この問題に対する生徒の関心の低さもうかがえた。

今回は三年生への授業であったが、一年生のときにこの授業を行い、これをきっかけにして「どうすればよいのか?」を考えていく授業を組み立てるのも効果的であると思われる。これからも、事実を知る権利と義務、そして、自分で考えて行動することの大切さについて教えていきたい。



今回の指導案で紹介した教材「人道法の探究」、「世界で生きる子どもたち」は日本赤十字社のホームページでも閲覧が可能です。(http://www.jrc.or.jp/youth/siryo/index.html)